

EXILIM

液晶デジタルカメラ

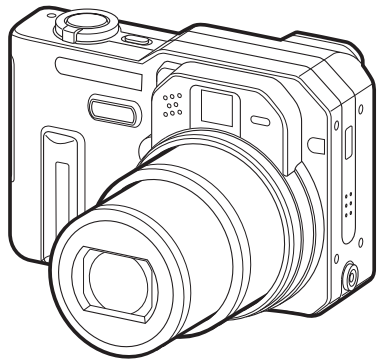
EX-P600

取扱説明書 (保証書付き)

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、ExilimオフィシャルWebサイト (<http://www.exilim.jp/>) またはカシオホームページ (<http://www.casio.co.jp/>) でご覧になることができます。



CASIO

K823FCM1PMJ

J Z

はじめに
早分かりガイド
準備する
撮影する(基本編)
撮影する(応用編)
再生する
消去する
ファイルの管理について
その他の設定について
メモリーカードを使用する
プリント(印刷)する
パソコンでファイルを見る
パソコンでファイルを活用する
付録

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

デジタルカメラ本体 	リチウムイオン充電電池 (NP-40) 	急速充電器 (BC-30L) 	カードリモコン
リチウム電池 (CR2025) 	ストラップ 	CD-ROM 	カードリモコン用
USBケーブル 	AVケーブル 	取扱説明書 (保証書付き) 	カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア

2

目次

はじめに

2

■付属品の確認	2
■目次	3
■あらかじめご承知いただきたいこと	10
■本機の特徴	11
■使用上のご注意	14
撮影前のご注意	14
データエラーのご注意	14
使用環境について	14
結露について	14
レンズや位相センサーについて	15
その他の注意	15

早分かりガイド

16

■はじめに電池を充電する	16
■画面メッセージの言語/日時を設定する	17
■撮影する	18

はじめに

■撮影したファイルを見る(再生する)	18
■撮影したファイルを消去する	19

準備する

20

■各部の名称	20
カメラ本体	20
■液晶モニターの表示内容	23
RECモード時	23
PLAYモード時	27
■液晶モニターの表示内容を切り替える	28
■ランプについて	30
■ストラップを取り付ける	31
■電源について	31
急速充電器の使いかた	31
充電式電池を取り出す	35
電源に関する使用上のご注意	37
家庭用電源を使う	38
電源を入れる/切る	40
電池の消耗を抑えるための機能	40
■メニュー画面の操作について	41
■表示言語/日時を設定する	43

3

はじめに

撮影する(基本編)

45

■基本的な撮影のしかた	45
カメラの正しい構えかた	45
撮影する	46
撮影時のご注意	47
オートフォーカスのご注意	48
撮影時の画面のご注意	48
■最後に撮影した画像をすぐに確認する	48
プレビュー中の画像を消去する	49
■縦横認識機能について	49
■ファインダーを使って撮影する	51
■ズームを使って撮影する	51
光学ズーム	51
デジタルズーム	52
■フラッシュを使って撮影する	53
フラッシュの状態について	54
フラッシュの光量を変える	55
フラッシュ使用時のご注意	55
■セルフタイマーを使って撮影する	56
■画像サイズを変更する	57
■画質を変更する	58

4

撮影する(応用編)

59

ピント合わせの方法を変える	59
自動でピントを合わせる(オートフォーカス)	60
近くを撮影する(マクロ)	62
遠くを撮影する(無限遠)	62
手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)	63
ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)	64
フォーカスロック	64
■露出を補正する(EVシフト)	65
■ホワイトバランスを変える	66
マニュアルホワイトバランスを設定する	67
■露出の方法を変えて撮影する(露出モード)	68
絞りを優先して撮影する(絞り優先AE)	68
シャッター速度を優先して撮影する(シャッター速度優先AE)	69
絞り値/シャッター速度を自由に設定して撮影する(マニュアル露出)	70
撮影ガイドダンスと露出調整バーを表示する(マニュアルアシスト機能)	71
露出モード撮影時のご注意	72
■露出を固定して撮影する(AEロック撮影)	73

■連続して撮影する(連写モード).....	74
連続して撮影する(通常連写).....	74
高速で連続して撮影する(高速連写).....	75
25コマを1枚の画像にまとめる(マルチ連写).....	75
連写時のご注意.....	76
■オートブラケティング撮影をする.....	77
露出を自動的に変化させながら撮影する (AEブラケティング撮影).....	77
ホワイトバランスを自動的に変化させながら 撮影する(WBブラケティング撮影).....	78
フォーカス距離(位置)を自動的に変化させながら 撮影する(フォーカスブラケティング撮影).....	79
さまざまな撮影条件を少しずつ変化した画像を 撮影する(マルチブラケティング撮影).....	80
オートブラケティング撮影時のご注意.....	81
■高速連写/ブラケティング撮影した画像を すぐに確認する(マルチプレビュー機能).....	82
プレビュー中の画像を消去する.....	83
■さまざまなシーンを選んで撮影する (ベストショットモード).....	84
撮影したいシーンを登録する(カスタム登録).....	85
■二人で記念撮影をする(カップリングショット) ..	87
■好みの構図で記念撮影をする(プリショット)	88

■動画を撮影する(ムービーモード).....	89
■音声を記録する.....	91
画像に音声を加えて記録する (音声付き静止画撮影モード).....	91
音声のみ記録する(ボイスレコードモード).....	92
■各種機能を設定する.....	94
ISO感度を変える.....	94
オートフォーカス方式(AF方式)を変える.....	95
測光方式を変える.....	96
色を変える(フィルター).....	96
シャープネスを変える.....	97
彩度を変える.....	97
コントラストを変える.....	98
グリッドを表示する.....	98
撮影した画像を確認する(撮影レビュー).....	99
左右キーに機能を割り当てる(キーカスタマイズ)	99
各種設定を記憶させる(モードメモリ).....	100
各種設定をリセットする.....	101
■[EX 1]を使って素早く設定する (EXメニューによるショートカット).....	101
■カードリモコンを使って撮影する.....	102
電池を入れる.....	103
カードリモコンを使う前に.....	104
カードリモコンを使う.....	104

■外部フラッシュを接続して撮影する.....	105
使用できる外部フラッシュの条件.....	105
外部フラッシュの接続.....	106
■コンバージョンレンズ/クローズアップレンズ やフィルターを取り付けて撮影する.....	107
コンバージョンレンズ/クローズアップレンズを 取り付ける.....	108
フィルターを取り付ける.....	110
再生する 111	
■基本的な再生のしかた.....	111
音声付き画像を再生する.....	112
■画像を拡大して表示する.....	112
■画像サイズを変える(リサイズ).....	113
■画像の一部を切り抜く(トリミング).....	114
■ピントを確認する.....	115
■動画を再生する.....	115
■1つの画面に9つの画像を表示する.....	116
目当ての画像を素早く表示する.....	116
■カレンダー表示をする.....	117

■画像を自動的にページめくりさせる (スライドショー).....	117
表示画像を設定する.....	118
時間を設定する.....	119
間隔を設定する.....	119
■回転表示させる.....	120
■画像ルーレット機能を使う.....	120
■画像に音声を追加する (アフターレコーディング機能).....	121
音声を記録し直す.....	122
■音声を再生する.....	123
■テレビに画像を映し出す.....	123
ビデオ出力の方式を変更する.....	124

消去する 125

■1ファイルずつ消去する.....	125
■すべてのファイルを消去する.....	126

ファイルの管理について 127

■フォルダの分類について.....	127
メモリー内のフォルダ/ファイルについて.....	127
■記録したファイルにメモリープロテクト (消去防止)をかける.....	128
1ファイル単位でメモリープロテクトをかける.....	128
全ファイルにメモリープロテクトをかける.....	129
■お気に入りフォルダを使う.....	129
お気に入りフォルダにファイルをコピー(登録)する.....	129
お気に入りフォルダのファイルを表示する.....	130
お気に入りフォルダから1ファイルずつ消去する ..	131
お気に入りフォルダの全ファイルを消去する.....	131

その他の設定について 132

■カメラの音を設定する.....	132
シャッター音などの操作音を設定する.....	132
音量を設定する.....	132
■起動画面のオン/オフを切り替える.....	133
■エンディング画面に表示する画像を設定する.....	134
エンディング機能を設定する.....	134
エンディング画面に表示する画像の設定を解除する.....	135

■ファイルの連番のカウント方法を切り替える	135
■アラームを鳴らす.....	136
アラームを設定する.....	136
アラームを止める.....	136
■日時を設定し直す.....	136
ホームタイムの都市を設定し直す.....	137
ホームタイムの日時を設定し直す.....	137
日付の表示スタイルを切り替える.....	137
■ワールドタイムを表示する.....	138
ワールドタイムを表示させる.....	138
ワールドタイムを設定する.....	138
サマータイムを設定する.....	139
■表示言語を切り替える.....	139
■USB端子の通信方法を切り替える.....	140
■内蔵メモリーをフォーマットする.....	140

メモリーカードを使用する 141

■メモリーカードを使う.....	142
メモリーカードを入れる.....	142
メモリーカードを取り出す.....	142
メモリーカードをフォーマットする.....	143
メモリーカードのご注意.....	143

■ファイルをコピーする.....	144
内蔵メモリーからメモリーカードにファイルを コピーする.....	144
メモリーカードから内蔵メモリーにファイルを コピーする.....	145

プリント(印刷)する 146

■プリント(印刷)するには.....	146
■DPOF機能について.....	147
1画像単位で印刷設定する.....	147
全画像に印刷設定する.....	148
■PictBridge/USB DIRECT - PRINTについて ..	149
1枚ずつプリントする.....	150
まとめてプリントする.....	152
プリントについてのご注意.....	152
■PRINT Image Matching IIについて.....	153
■Exif Printについて.....	153

パソコンでファイルを見る 154

■お持ちのパソコンがWindowsの場合.....	154
USB接続時のご注意.....	159
■お持ちのパソコンがMacintoshの場合.....	160
USB接続時のご注意.....	163
■パソコンでいろいろなことができます.....	164
■メモリーカードを直接接続して取り込む.....	164
■メモリー内のデータについて.....	165
DCF規格について.....	165
メモリー内のディレクトリ構造.....	166
このデジタルカメラで扱える画像ファイル.....	168
パソコン上で内蔵メモリー/メモリーカードを 扱うときのご注意.....	168

パソコンでファイルを活用する 169

■アルバム機能を使う.....	169
アルバムを作成する.....	169
アルバムのレイアウトを選ぶ.....	171
アルバムの詳細を設定する.....	171
アルバムファイルを見る.....	173

アルバムを保存する	176
アルバムを消去する	176
■ソフトをインストールする	177
付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラ アプリケーションソフトウェア)について	177
パソコンの動作環境について	178
インストールする	179

■サービスステーション/相談窓口	198
カシオテクノ・サービスステーション	198
カシオお客様ご相談窓口	199
■保証規定	199
■保証・アフターサービスについて	200
■索引	202
■ExilimオフィシャルWebサイトのお知らせ	211

付録 184

■メニュー一覧表	184
RECモード	184
PLAYモード	185
■ランプの状態と動作内容	186
RECモード	187
PLAYモード	187
急速充電器(付属品)	188
■故障かな?と思ったら	189
現象と対処方法	189
画面に表示されるメッセージ	193
■主な仕様/別売品	194
主な仕様	194
別売品	198

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万一、ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になる場合は、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像/動画フォーマットファイル、音声/音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet ExplorerおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国アップルコンピュータ社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。
- AcrobatおよびAcrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- USBドライバ(マストレージ)はPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。Compatibility Software Copyright© 1997 Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved.
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機(株)の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機(株)に帰属します。

本機の特徴

- 有効画素数600万画素
フォトプリンター等でできめ細やかな高画質画像が印刷できるCCD総画素数637万画素の高画質CCD搭載。
- 2.0型TFTカラー液晶モニター搭載
- 長電池寿命
カメラ本体の省電力化と大容量電池採用により、長時間の撮影、再生を実現しました。
- 16倍ズームズーム搭載(51ページ)
光学ズーム4倍/デジタルズーム4倍
- 9.2MBフラッシュメモリー内蔵
メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。
- 高速・高精度オートフォーカス機能を搭載
位相センサーとコントラスト方式AFを併用することにより、従来よりも高速なピント合わせが可能。大切なシャッターチャンスを見逃しません。
- 3種類の連写モードを搭載(74ページ)
メモリーが許す限り振り続けることができる通常連写に加えて、スピードを優先した高速連写や、連写した画像を1枚の画像にまとめるマルチ連写の3種類の連写モードを搭載しました。

- 4種類のオートブラケティング撮影機能を搭載(77ページ)
露出/ホワイトバランス/フォーカス距離を少しずつ変化させた画像を、自動的に連続して撮影することができます。また、フィルターなどの条件を切り替えた画像を、1回の撮影で記録することができるマルチブラケティング撮影も搭載。
- エクスファインダー表示(26ページ)
撮影に必要な詳細データを液晶モニター上で確認しながら撮影ができます。
- EXメニュー表示(101ページ)
[EX]を押し表示されるEXメニュー画面から、よく使う4つの項目を素早く設定することができます。
- マルチオートフォーカス機能搭載(61ページ)
オートフォーカスのエリアを「マルチ」に切り替えることにより、7つのポイントを同時に測定して、最適なピント位置をカメラが自動的に判断することができます。ピントの中抜けを防ぎ、ピンぼけの少ない撮影が可能です。
- フリーAFエリア(61ページ)
フォーカスエリアを好きな位置に移動して撮影ができます。
- 拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC(マルチメディアカード)に対応(141ページ)
- マニュアルアシスト(71ページ)
難しいマニュアル露出撮影時のガイドランスを表示することができます。

- AEロック撮影(73ページ)
露出を固定して撮影することができますので、自由に構図を決めて撮影ができます。
- ベストショット機能搭載(84ページ)
煩わしい設定をカメラが自動的に行うので、簡単に綺麗な写真を撮ることができます。
- 2つの記念撮影支援機能を搭載(87、88ページ)
二人きりでも二人揃って記念撮影ができるカップリングショット機能、安心して他人に構図をまかせることができるプリショット機能があります。
- トリプルセルフタイマーモード搭載(56ページ)
セルフタイマー撮影を自動的に3回くり返すモードを搭載しました。
- リアルタイムRGBヒストグラム機能を搭載(29ページ)
ヒストグラム表示を確認しながら露出の調節ができます。難しい露出条件でも、意図した露出の画像が手軽に撮影できます。
- フルドタイム機能搭載(138ページ)
簡単に現地の時間にセットできます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。
- アラーム機能搭載(136ページ)
アラーム機能付きですので、目覚まし時計の代わりにもなります。また、登録した画像や、音声、動画をアラームと同時に再生させることもできます。

- アルバム機能搭載(169ページ)
撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、Webブラウザで見たり、印刷することができます。また、自分のホームページ用データとしても利用することができます。
- カレンダー表示が可能(117ページ)
1ヶ月分のカレンダー表示の日付上、その日に撮影した最初の画像を表示させることができ、見た画像を素早く探すことができます。
- 画像撮影後、続けて音声も録音可能な音声付き静止画撮影モードを搭載(91ページ)
- 音声付きムービー撮影機能を搭載(89ページ)
- 音声を録音することができるボイスレコード機能を搭載(92ページ)
- 撮影済みの画像に音声を追加するアフターレコーディング機能を搭載(121ページ)
- カメラの音設定が可能(132ページ)
電源オン時の起動音、撮影時のシャッター音、シャッターボタン半押し時、キー操作時の操作音を、好みに合わせて設定することができます。
- カードリモンによる遠隔操作が可能(102ページ)
- 外部フラッシュを接続可能(105ページ)

- コンバージョンレンズ/クローズアップレンズの装着が可能(107ページ)
コンバージョンレンズやクローズアップレンズを装着することにより、さらなる望遠撮影や広角撮影、より近接のマクロ撮影ができます。
- DCF(Design rule for Camera File system)対応(165ページ)
画像データは統一規格のDCF規格に準拠しているため、同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- DPOF(Digital Print Order Format)対応(147ページ)
DPOF規格に対応しているため、同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- PRINT Image Matching II 対応(153ページ)
本製品はPRINT Image Matching IIに対応しています。PRINT Image Matching II対応プリンタでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることができます。
- USB DIRECT - PRINT対応(149ページ)
本製品はセイコーエプソン株式会社提唱のUSB DIRECT - PRINTに対応しています。本製品はUSB DIRECT - PRINT対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。

- PictBridge対応(149ページ)
本製品はカメラ映像機器工業会(CIPA)制定のPictBridgeに対応しています。本製品はPictBridge対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。
- カメラとパソコンをUSBケーブルで接続するだけで、簡単にパソコンへ画像データを転送することができます(154、177ページ)。
- カメラとテレビをAVケーブルで接続するだけで、撮影した画像をご家庭のテレビで見ることができます(123ページ)。
- Photo Loader、Photohands付属(177ページ)
好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderを付属。タッチ機能を備えたPhotohands も付属。更に多彩に画像を活用できます。

使用上のご注意

撮影前のご注意

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。
 - －カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
 - －電源を切ったときに【動作確認用ランプ】が点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
 - －通信中にUSBケーブルがはずれた
 - －消耗した電池を使用し続けた
 - －その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(193ページ)。画面に対応したご処置をお願いいたします。

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
 - －直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
 - －冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
 - －日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く(結露)ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池ボックスを開けたまま数時間放置してください。

レンズや位相差センサーについて

- レンズ面や位相差センサーは強くこすったりしないでください。レンズ面や位相差センサーに傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズ面や位相差センサーが指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面や位相差センサーには触れないでください。レンズ面や位相差センサーの汚れは、フローア等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- カメラを構えたときに、位相差センサーを指で隠さないようにしてください。

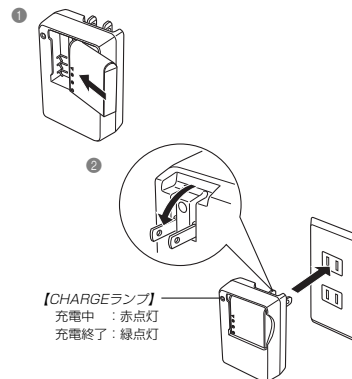
その他の注意

- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

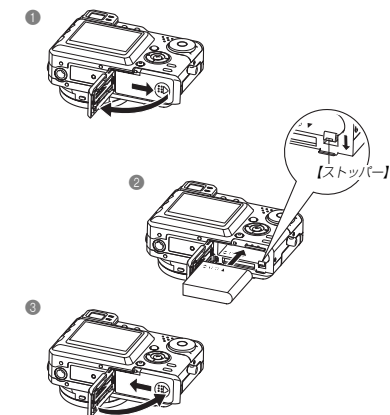
早分かりガイド

はじめに電池を充電する

1. 付属のリチウムイオン充電電池(NP-40)を充電します(32ページ)。
 - 約2時間でフル充電されます。

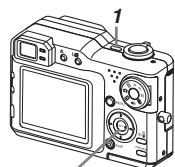


2. 電池を入れます(34ページ)。



画面メッセージの言語/日時を設定する

重要! • お買い上げ後、初めて撮影する前に設定してください(詳しくは43ページ参照)。



2, 3, 4, 5, 6, 7, 8

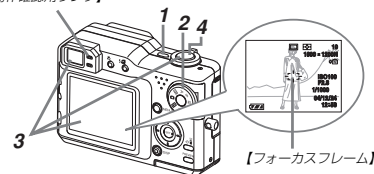
1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
2. 【▲】を押して、言語(日本語)を選び、【SET】を押して言語を設定します。
3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅都市のエリアを選び、【SET】を押して自宅都市のエリアを設定します。
4. 【▲】【▼】で自宅都市を選び、【SET】を押して自宅都市を設定します。
 - 日本で使う場合は「Tokyo」を選んでください。
5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押してサマータイムを設定します。
 - 日本で使う場合は「切」を選んでください。
6. 【▲】【▼】で日時の表示スタイルの設定を選び、【SET】を押して表示スタイルを設定します。
7. 日付と時刻を合わせます。
8. 【SET】を押します。
 - 設定を終了します。

17

撮影する

(詳しくは46ページ参照)

【動作確認用ランプ】



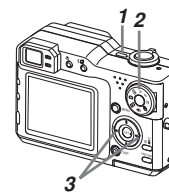
【フォーカスフレーム】

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
2. 【モードダイヤル】を「」に合わせます。
3. 撮影する被写体にカメラを向け、【液晶モニター】または【ファインダー】を覗いて、【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。
 - ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色になり、緑色の【動作確認用ランプ】が点灯します。
4. カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。

18

撮影したファイルを見る(再生する)

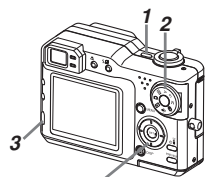
(詳しくは111ページ参照)



1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
2. 【モードダイヤル】を「」に合わせます。
3. 【◀】【▶】を押すと、記録したファイルの戻し/送りができます。

撮影したファイルを消去する

(詳しくは125ページ参照)



4, 5, 6

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
2. 【モードダイヤル】を「」に合わせます。
3. 【EX 】を押します。
4. 【◀】【▶】を押して、消去したいファイルを選びます。
5. 【▲】【▼】を押して、「消去」を選びます。
 - 消去を中止したいときは、「キャンセル」を選んでください。
6. 【SET】を押します。
 - ファイルが消去されます。

19

準備する

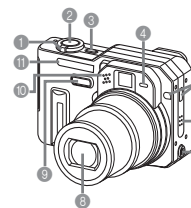
初めてご使用になる方は、撮影前の準備を行ってください。

各部の名称

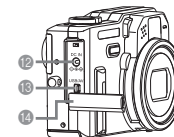
この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【 】を使って表記します。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

カメラ本体

■前面部



- 1 【ズームレバー】
- 2 【シャッター】
- 3 【電源ボタン】
- 4 【セルフタイマーランプ】
- 5 【リモコン受光部】
- 6 【スピーカー】
- 7 【外部フラッシュシンクロ端子】
- 8 【レンズ】
- 9 【位相差センサー】
- 10 【マイク】
- 11 【フラッシュ】



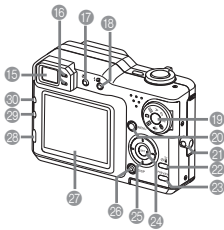
- 12 【DC IN】(外部電源端子)
- 13 【USB/AV】(USB/AV接続端子)
- 14 【端子カバー】

端子カバーの開きかた



20

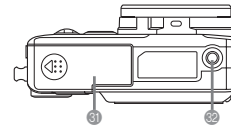
■後面部



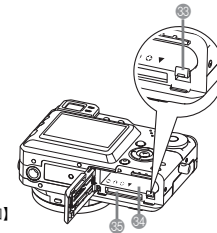
- 16 【ファインダー】
16 【動作確認用ランプ】
17 【フォーカス】
18 【 $\frac{1}{2}$ 】(フラッシュ/カレンダー表示)
19 【モードダイヤル】
- ▶ : PLAY(再生)モード
⏏ : 静止画モード
BS : ベストショットモード
A : 絞り優先AEモード
S : シャッター速度優先AEモード
M : マニュアル露出モード
M : ムービーモード
🎤 : ボイスレコードモード
- 20 【MENU】
21 【ストラップリング】
22 【 \odot 】(セルフタイマー/リモコン)
23 【PREVIEW】
24 【SET】
25 【コントロールボタン】
・本書では、このボタンは【 \blacktriangle 】【 \blacktriangleleft 】【 \blacktriangleright 】と表記します。
- 26 【DISP】
27 【液晶モニター】
28 【EX \square 】(EX/消去)
29 【AE-L】(AEロック)
30 【BKT】(連写/オートブラケティング)
- REC(撮影)モード

21

■底部部



- 31 【電池カバー】
32 【三脚穴】
※三脚に取り付けるときに使用します。



- 33 【ストッパー】
34 【電池室】
35 【メモリーカード挿入口】

22

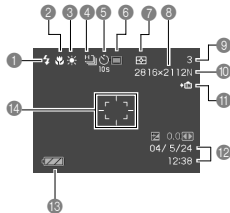
液晶モニターの表示内容

【液晶モニター】には、さまざまな情報が表示されます。

・この章の画面は、説明に必要な内容を表示させたものですので、実際の画面とは一致しません。あらかじめご了承ください。

RECモード時

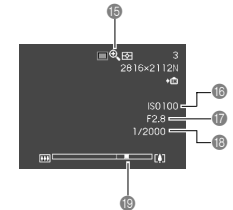
■情報表示



- 1 フラッシュモード表示
表示なし(自動発光)
🔆 (発光禁止)
🔆 (強制発光)
🔆 (赤目軽減)
- 2 フォーカスモード
表示なし(オートフォーカス)
M (マクロ(接写))
MF (ハンフォーカス)
∞ (無限遠)
MF (マニュアルフォーカス)
- 3 ホワイトバランス表示
表示なし(オート)
- 4 連写/オートブラケティングモード
📄 (1枚撮影)
📄 (高速連写)
📄 (通常連写)
📄 (マルチ連写)
AEB (AEブラケティング撮影)
WB (WBブラケティング撮影)
AFB (フォーカスブラケティング撮影)
MB (マルチブラケティング撮影)
- 5 セルフタイマー/リモコンモード
表示なし(1枚撮影)
- 6 REC(撮影)モード
⏏ (静止画モード)
BS (ベストショットモード)
A (絞り優先AEモード)
S (シャッター速度優先AEモード)
M (マニュアル露出モード)
M (ムービーモード)
🎤 (ボイスレコードモード)
- 7 測光方式表示
☀️ (マルチ測光)
📍 (中央重点測光)
📍 (スポット測光)
- 8 画像サイズ
2816 × 2112 pixels
2816 × 1872 (3:2) pixels
2048 × 1536 pixels
1600 × 1200 pixels
1280 × 960 pixels
640 × 480 pixels
ムービーモード時：撮影時間
- 9 撮影可能枚数
ムービーモード時：残り撮影時間

23

- 10 画質
F : FINE (高精細)
N : NORMAL (標準)
E : ECONOMY (エコノミー)
T : TIFF (非圧縮)
- 11 メモリー表示
📄 (内蔵メモリー使用中)
📄 (メモリーカード使用中)
- 12 日付/時刻
- 13 バッテリー残量表示
- 14 フォーカスフレーム表示
・ピント合わせ完了時：緑色に点灯
・ピント合わせ不可時：赤色に点灯

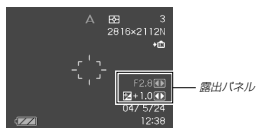


- 15 デジタルズーム表示
16 ISO感度
17 絞り値
18 シャッター速度
・絞りやシャッター速度はAE(自動露出)が適正範囲でない場合、【シャッター】を半押ししたときに橙色で表示されます。
19 ズームバー
左部分が光学ズーム域
右部分がデジタルズーム域

24

■露出パネル

REC(撮影)モードでは、さまざまな調整項目が画面右下に表示されます(この部分を露出パネルと呼びます)。この表示から露出を調整することができます。



露出パネル

- RECモードにより、表示される項目は下記のように異なります。

① 絞り値

絞りを調整します。

- 絞り優先AEモード、マニュアル露出モード時に表示されます。

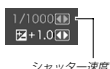


絞り値

② シャッター速度

シャッター速度を調整します。

- シャッター速度優先AEモード、マニュアル露出モード時に表示されます。

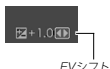


シャッター速度

③ EVシフト(露出補正值)

露出補正值を調整します。

- 静止画モード、ベストショットモード、絞り優先AEモード、シャッター速度優先AEモード時に表示されます。

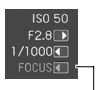


EVシフト(露出補正值)

④ MF(マニュアルフォーカス)調整

マニュアルフォーカスの位置を調整します。

- マニュアルフォーカス時にのみ表示されます。

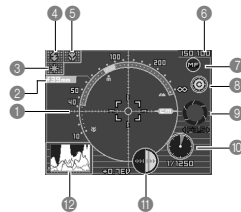


MF(マニュアルフォーカス)調整

25

準備する

■エクスファインダー表示



① 合焦距離スケール

- ピントが合う範囲を表示します。ただし、正確な合焦距離ではなく、目安の数値です。
- 下記の状態では、このスケールは表示できなくなります。
 - オートフォーカス方式(AF方式)を「コントラスト」に設定した場合(95ページ)
 - オートフォーカス方式(AF方式)を「ハイブリッド」に設定して、フォーカスモードを \downarrow (マクロモード)にした場合(62、95ページ)
 - 測距が不可能なほど、極端に暗いまたは極端に明るい場合
 - オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を「フリー」に設定した場合(61ページ)

② 焦点距離

③ ホワイトバランス表示

④ フラッシュモード表示

⑤ フォーカスモード表示

⑥ ISO感度

⑦ マニュアルフォーカスアイコン

- マニュアルフォーカス撮影時のみ表示します。
- 画面上の \odot に \blacktriangle を押してカーソルを移動し、 \blacktriangle を押すと、エクスファインダー表示が消えて、マニュアルフォーカスの位置を示すバー(63ページ)が表示されます。

⑧ カラー切り替えアイコン

- 画面上の \odot に \blacktriangle を押してカーソルを移動し、 \blacktriangle を押すことにより、エクスファインダー表示の色調を切り替えることができます。

⑨ 絞り値

⑩ シャッター速度

- 絞り値とシャッター速度はAE(自動露出)が適正範囲でない場合、[シャッター]を半押ししたときに橙色で表示されます。

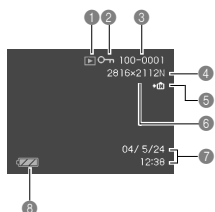
⑪ EVシフト(露出補正值)

⑫ ヒストグラム表示(29ページ)

26

PLAYモード時

準備する



① ファイル形態

- (静止画)
- (動画)
- (音声付き静止画)
- (ボイスレコード)

② プロテクト表示

③ フォルダ名/ファイル番号

④ 画質

- F: FINE (高精細)
- N: NORMAL (標準)
- E: ECONOMY (エコノミー)
- T: TIFF (非圧縮)

⑤ メモリー表示

- (内蔵メモリー使用中)
- (メモリーカード使用中)

⑥ 画像サイズ

- 2816×2112pixels
- 2816×1872(3.2) pixels
- 2048×1536pixels
- 1800×1200pixels
- 1280×960pixels
- 640×480pixels

⑦ 日付/時刻

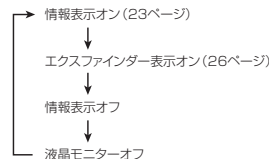
⑧ バッテリー残量表示

27

準備する

液晶モニターの内容を切り替える

[DISP]を押すごとに、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。



重要!

- ムービーモードでは「エクスファインダー表示オン」にはなりません。情報表示に加えて、ヒストグラムが表示されます。
- 下記モードでは「エクスファインダー表示オン」にはなりません。PLAYモード、カップリングショット、プリショット
- 下記モードでは「液晶モニターオフ」にはなりません。PLAYモード、ベストショットモード、ムービーモードの撮影待機中
- ムービー撮影中と音声付き静止画の音声待機中/記録中は、[DISP]を使って【液晶モニター】の表示内容を切り替えることはできません。
- カップリングショット、ボイスレコードモードでは、「情報表示オン」と「液晶モニターオフ」の切り替えのみとなります。

28

■ヒストグラム表示

本機では、ヒストグラムを表示させることにより、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。PLAYモードでは、撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。

- ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために十分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、EVシフト(露出補正)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。

- ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎてしまうと、黒つぶれを起こしている可能性もあります。
- ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎてしまうと、白飛びを起こしている可能性もあります。
- ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。



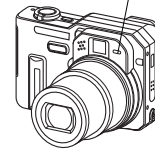
29

- 重要!**
- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
 - 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
 - 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
 - フラッシュ撮影による撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。

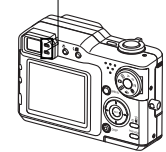
ランプについて

ランプの色や点灯、点滅によってカメラの動作状況を知ることができます。詳しくは「ランプの状態と動作内容」(186ページ)をご覧ください。

【セルフタイマーランプ】



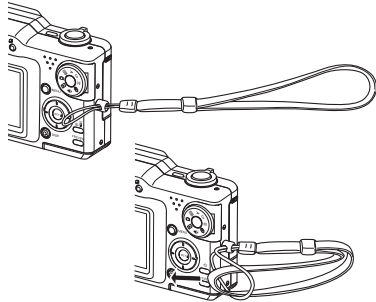
【動作確認用ランプ】



30

■ストラップを取り付ける

ストラップは、図のように【ストラップリング】に取り付けます。



- 重要!**
- 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに手首を通し、ストラップ留めで手首から容易にはずれない状態で使用してください。
 - 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
 - ストラップを持って本機を振り回さないでください。

■電源について

本機は下記のいずれかの電源が利用できます。

- 電池
専用リチウムイオン充電電池NP-40：1個

電池は、最初充電されておりません。「急速充電器の使いかた」に従って充電してください。

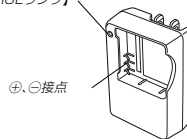
- 家庭用電源
ACアダプター：AD-C40(別売)

■急速充電器の使いかた

この充電器で専用リチウムイオン充電電池(NP-40)を充電できます。

■急速充電器の各部の名称

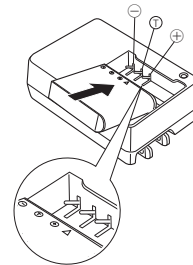
【CHARGEランプ】



31

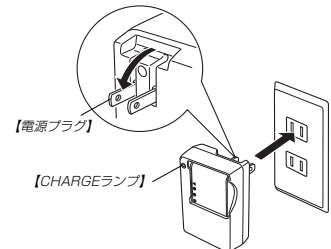
■電池の入れかた

電池と充電器の極性を合わせて入れてください。向きが違っていると充電できません。



■充電式電池を充電する

- 電池と充電器の極性を合わせ、電池を充電器にセットします。
 - 充電器のプラグを起こし、家庭用コンセントに接続します。
 - 充電器の【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電を開始します。
 - 約2時間*でフル充電されます。
- * 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。



32

準備する

3. 充電を完了すると【CHARGEランプ】が緑色に点灯しますので、充電器をコンセントから取りはずし、その後充電器から電池を取りはずします。

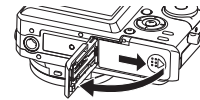
- 重要!**
- 充電開始時に電池温度または充電器の温度が高温状態または低温状態のときは、【CHARGEランプ】が点灯し、充電待ちの状態になります。充電可能な温度になると、【CHARGEランプ】が赤点灯に変わり、自動的に充電を開始します。充電中においても、一時的に【CHARGEランプ】が点灯し、充電待ち状態になる場合があります。
 - 使用した直後の熱くなった電池をすぐに充電すると、十分に充電されない場合があります。いったん電池が冷えるのを待ってから充電してください。
 - 電池は使用せずに放置していた場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
 - 本電池はデジタルカメラ用です。その他の機器でもご使用いただけますが、ご使用の機器の取扱説明書で確認してください。
 - 本電池の電池寿命は使用状況によって異なりますが、約500回の充放電ができます。
 - 充電器は100~240Vの電源に対応していますが、使用する国によってはプラグ形状が合わないなどの問題があるため、現地で使用可能かどうかを事前に確認してください。

- 充電中、テレビラジオに雑音が入ることがあります。そのような場合は、テレビラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電器の接点や、電池の端子が汚れていると正常に充電できないことがあります。時々乾いた布で拭いてください。

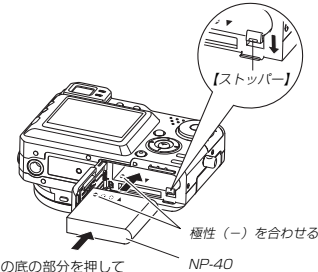
準備する

充電式電池を入れる

1. 本体底面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。



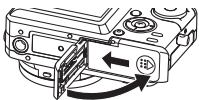
2. 図のようにカメラと電池の極性(+)を合わせるようにして、電池側面【ストッパー】を矢印の方向にずらしたまま電池をセットします。



- 電池の底の部分を押して【ストッパー】が電池にしっかりかかるのを確認してください。

準備する

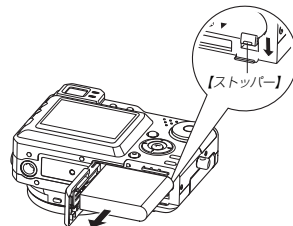
3. 【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。



- 重要!**
- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電電池(NP-40)をお使いください。他の電池は使用できません。

充電式電池を取り出す

- 【電池カバー】を開きます。
- 【ストッパー】を矢印の方向にずらすと、電池が少し出できます。



- 出てきた電池を引き抜きます。
 - 電池を落とさないようにご注意ください。

準備する

■電池寿命の目安

下記の電池寿命は、温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

撮影枚数(CIPA) (動作時間)*1	約260枚 (約2時間10分)
連続撮影枚数 (動作時間)*2	約600枚 (約2時間30分)
連続再生時間 (静止画)*3	約5時間
ボイスレコード 録音時間*4	約4時間20分

- 使用電池：NP-40(定格容量：1230mAh)
- 記録メディア：SDメモリーカード
- 測定条件
 - ※1 撮影枚数(CIPA)
CIPA規準に準ずる
温度(23℃)、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光(2枚に1回)、10回撮影に1度電源を切/入操作
 - ※2 連続撮影枚数
温度(23℃)、液晶モニターオン、フラッシュ非点灯、約15秒に1枚撮影
 - ※3 連続再生時間
温度(23℃)、約10秒に1枚ページ送り

※4 ボイスレコード録音時間は、連続で録音したときの時間で

- 上記数値は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

■電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、フラッシュの発光方法を③(発光禁止)に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります(53ページ参照)。
- 【DISP】を押して【液晶モニター】をオフにすると、消費電力が小さくなります。

■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。【電池】の状態は電池残量が少ないことを表しています。【電池】の状態では撮影できません。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ← → 少
画面情報表示	☐ → ☐ → ☐ → ☐
残量表示の色	みず色 → オレンジ色 → 赤色 → 赤色

電源に関する使用上のご注意

■電池使用時のご注意

使用上のご注意

- 充電は5℃～35℃の温度範囲で行ってください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われるので、新しいものをお買い求めください。

保存上のご注意

- リチウムイオン充電電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
 - しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
 - 使用しないときは必ず充電電池をデジタルカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、こわれたりします。
 - 乾燥した涼しい場所(20℃以下)で保存してください。

充電電池の取扱いについて

- リサイクルのお願い



Li-ion

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、社団法人 電池工業会小形二次電池再資源化推進センターのホームページをご参照ください。

- ホームページ <http://www.JBRC.com/>

- 使用済み充電電池の取扱い注意事項
 - プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
 - 被覆をはがさないでください。
 - 分解しないでください。

37

■充電器使用時のご注意

- 充電中、充電器は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、充電器をコンセントから必ずはずしてください。
- この充電器は、垂直または床面(水平)状態で使用してください。

参考

- 充電器は100～240Vの電源に対応していますが、使用する国によってはプラグ形状が合わないなどの問題があるため、現地で使用可能かどうかを事前にご確認ください。

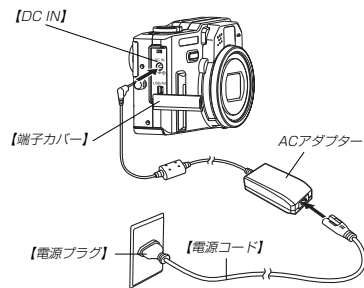
家庭用電源を使う

家庭用電源で本機を使うときには、別売のACアダプター(AD-C40)が必要です。

1. 【電源コード】をACアダプターに接続します。
2. カメラの【端子カバー】を開き、【DC IN】にACアダプターのプラグを接続します。

38

3. 【電源プラグ】をコンセントに接続します。



- 参考
- ACアダプターはAC100～240Vの電源に対応していますので、海外への旅行の際もご利用になれます。海外でのご使用では各地域に合った市販の電源コードをお買い求めください。

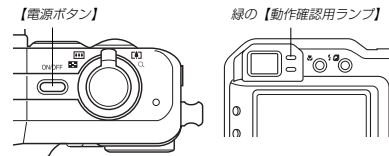
■ACアダプター使用時のご注意

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ず本機の電源を切った状態で行ってください。
- 本機に電池をセットした状態でACアダプターを使う場合でも、電源を入れたままACアダプターの抜き差しをするのはお止めください。電源を入れたままACアダプターの抜き差しを行うと製品保護のために本機の電源は一度切れますが、保護しきれずに故障の原因となります。
- ACアダプターは、長時間使用しますと若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターのプラグを差し込むと、電池よりもACアダプターが優先されます。
- パソコンと接続する際は、ACアダプターをお使いください。
- ACアダプターの上に毛布などがかぶらないようにしてください。火災の原因となります。

39

電源を入れる／切る

電源の入／切は【電源ボタン】で行います。
【電源ボタン】を押すと電源が入り、緑の【動作確認用ランプ】が点滅します。再度【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。



- 重要!
- オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、【電源ボタン】を押して、再度電源を入れてください。
 - RECモードで電源を入れると、レンズが出てきます。その際にレンズを押さえたり、ぶつけないようご注意ください。

電池の消耗を抑えるための機能

電池の消耗を抑えるために、以下の2通りの設定ができます。

スリープ : RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ点灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。
オートパワーオフ : 一定時間操作しないと電源が切れます。

1. 電源を入れます。
2. 【MENU】を押します。
3. 【◀】【▶】で“設定”タブを選びます。
4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。
スリープの設定: “スリープ”
オートパワーオフの設定: “オートパワーオフ”
 - メニューのたどりかたについては41ページを参照してください。

40

5. **[▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押します。

スリープの設定内容：“30秒”“1分”“2分”“切”

オートパワーオフの設定内容：“2分”“5分”

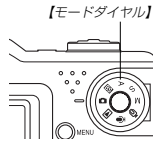
- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- 以下の状態では、オートパワーオフ、スリープは働きません。
 - 本機のUSB/AV接続端子を通じてパソコンなどと接続しているとき
 - スライドショー中
 - ボイスレコードファイル再生中
 - 動画再生中

メニュー画面の操作について

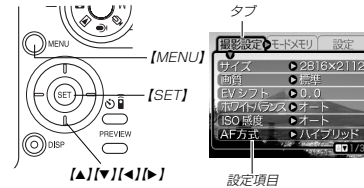
本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。**[MENU]**を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC(撮影)モードとPLAY(再生)モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

1. 電源を入れ、**[モードダイヤル]**を**“M”**に合わせます。

- PLAYモードにして操作を行うときは**“▶”**に合わせます。



41

2. **[MENU]**を押します。

●メニュー画面で使うキーについて

[◀][▶]	タブを選びます。 [▶] は項目の決定にも使います。
[▲][▼]	設定項目を選びます。
[SET]	選択した項目に決定します。
[MENU]	メニュー画面の操作を中断します。

3. **[◀][▶]**で設定したい項目のあるタブを選びます。

42

4. **[▲][▼]**で設定したい項目を選び、**[▶]**を押します。
- [▶]**を押す代わりに**[SET]**を押しても、次の画面に移ります。



例) 設定項目“サイズ”を選んだ場合

5. **[▲][▼]**で設定内容を選びます。

6. 選択した内容を決定します。

- [SET]**を押すと内容が決定され、メニュー画面から出ます。
 - [◀]**を押すと内容が決定され、メニュー画面に戻ります。続けて他の項目を設定することができます。
 - 他のタブに移りたいときは、**[◀]**を押して、**[▲]**でタブに戻り、**[▶]**で他のタブに移ってください。
- メニューの内容については「メニュー一覧表」(184ページ)を参照してください。

表示言語/日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

- 画面のメッセージの言語設定
- 自宅の都市の設定
- 表示スタイルの設定
- 日時設定(この日時は、印刷情報などに利用されます)

- 重要!** 日時を設定しないと、間違った時間データによって記録されてしまいますので、必ず設定してください。
- 電池やACアダプターで電源が供給されないと、日時がリセットされてしまいます。その場合は、日時設定画面が表示されますので、再度日時を設定してください。
 - 電池が消耗した状態で放置すると、約2日で日時がリセットされます。
 - 日時がリセットされているときに電源を入れると、毎回、日時設定画面が表示されます。

1. **[電源ボタン]**を押して、電源を入れます。2. **[▲][▼][◀][▶]**で言語を選び、**[SET]**を押します。

- 日本語 : 日本語
English : 英語
Français : フランス語
Deutsch : ドイツ語
Español : スペイン語
Italiano : イタリア語
Portugués : ポルトガル語
中国語 : 中国語(繁体)
中国語 : 中国語(简体)
한국어 : 韓国語

3. **[▲][▼][◀][▶]**で自分の住んでいる地域を選び、**[SET]**を押します。

43

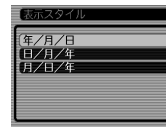
4. **[▲][▼]**で自分の住んでいる都市を選び、**[SET]**を押します。
- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。



5. **[▲][▼]**でサマータイムの設定を選び、**[SET]**を押します。
- 入：サマータイムになります。
切：通常の時刻になります。
- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

6. **[▲][▼]**で画面に表示される日付のスタイルを選び、**[SET]**を押します。

例) 2004年12月24日
年/月/日: 04/12/24
日/月/年: 24/12/04
月/日/年: 12/24/04



7. 日付と時刻を合わせます。

- [▲][▼]**を押す：
カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
- [◀][▶]**を押す：
カーソル(選択枠)を移動します。
- [DISP]**：
12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

8. **[SET]**を押して、設定を終了します。

44

撮影する(基本編)

ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

カメラの正しい構えかた

カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ぶれを起こす恐れがあります。

•横に持つ場合



両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかりと締めてください。

•縦に持つ場合



縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

- 重要!**
- 指やストラップが、右記の部分にかからないように注意してください。
 - 指で【位相差センサー】を隠さないように、特にご注意ください。



参考

- 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する(基本編)

撮影する

本機は被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り値を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵フラッシュメモリーに保存されます。

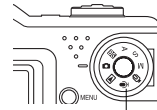
- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC<マルチメディアカード>)に保存することもできます(141ページ)。

- 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
 - 【液晶モニター】に画像が表示されます。



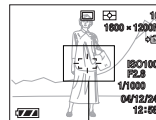
【電源ボタン】

- 【モードダイヤル】を「」(静止画モード)に合わせます。
 - RECモードになり、撮影できる状態になります。



【モードダイヤル】

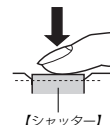
- 【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。



【フォーカスフレーム】

- 撮影できる範囲は、オートフォーカスモードでは約40cm〜∞です(60ページ)。
- 【ファインダー】から被写体を見て撮影することもできます(51ページ)。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは【DISP】を押して、【液晶モニター】を消すことで、電力の消費を減らすことができます。

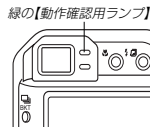
- 【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。
 - 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。このときISO感度も表示されます。



【シャッター】

撮影する(基本編)

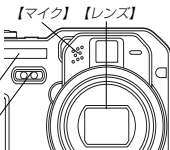
- ピントは【フォーカスフレーム】や緑の【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。



緑の【動作確認用ランプ】

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

- 【レンズ】や【位相差センサー】【フラッシュ】【マイク】を指でふさがないようにしてください。

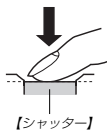


【マイク】 【レンズ】

【フラッシュ】

【位相差センサー】

- ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。
 - サイズ、画質によって保存できる枚数が異なります(57、58、195ページ)。
 - 手ぶれを起さないために、【シャッター】は静かに押ししてください。



【シャッター】

撮影時のご注意

- 緑の【動作確認用ランプ】が点滅している間に【電池プタ】を開けることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が「オート」の場合(94ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズが出る場合があります。
- ISO感度が「オート」の場合(94ページ)は、被写体が暗いときは感度を上げてシャッタースピードを速くするようにしていますが、フラッシュの発光方法(53ページ)が「」(発光禁止)のときは手ぶれに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

撮影する(基本編)

オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。
 - 一階調の無い壁などコントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 光沢のある金属など明るく反射している被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいづつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - 手ぶれをしているとき
 - 動きの速い被写体
- 緑の【動作確認用ランプ】が点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(64ページ)やマニュアルフォーカス(63ページ)をご利用ください。

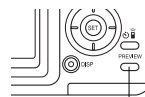
撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには高精度な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示反応速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

最後に撮影した画像をすぐに確認する

RECモードでも最後に撮影した画像をすぐに表示(プレビュー)することができます。

- 【PREVIEW】を押します。
 - 最後に撮影した画像が、簡易画像で表示されます。
 - 再度【PREVIEW】を押すと、元の状態に戻ります。
 - 電源を入れた直後や撮影後に【モードダイヤル】を回した直後に【PREVIEW】を押しても、動作しません。
 - ムービーモードではプレビューはできません。また、RECモードを切り替えるとプレビュー画像はクリアされます。



【PREVIEW】

プレビュー中の画像を消去する

最後に撮影した画像を、プレビュー中に消去することができます。

重要!一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要な画像かどうかをよく確かめてから行ってください。

1. [PREVIEW]を押して、簡易画像を表示させます。
2. [EX]を押します。
3. [▲][▼]で“消去”を選びます。
 - 消去を中止する場合は“キャンセル”を選びます。
4. [SET]を押します。
 - 最後に撮影した画像が消去されます。



49

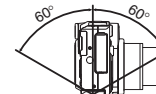
重要!撮影時に縦横変換センサーを働かせるために以下の点をご注意ください。

- カメラは静止させて撮影してください。カメラを移動しながら撮影すると、センサーが誤作動する場合があります。
- 縦位置で撮影する場合は、できるだけカメラを90°立てて撮影してください。傾けた状態で撮影すると、センサーが誤作動する場合があります(90°立てた状態から20°以内を目安としてください)。
- カメラを構えるときは、[レンズ]より[フラッシュ]が上側にくるようにしてください。



50

● カメラを前後に寝かせて撮影すると、90°立てて撮影していてもセンサーが誤作動する場合があります。カメラを寝かせないようにして撮影してください(60°寝かせた状態までを目安としてください)。

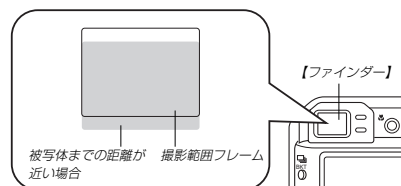


● ムービーモードでは、縦横変換センサーは働きません。

ファインダーを使って撮影する

電池の消耗を抑えるために【液晶モニター】をオフ(28ページ)にし、【ファインダー】を使って撮影することができます。

重要!撮影範囲フレームは約1m以上離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近い場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。



- マクロモードやマニュアルフォーカスモードでは、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

光学ズーム

光学ズーム機能により、レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1~4倍

1. RECモードにします。
2. 【ズームレバー】をスライドさせて、ズームの倍率を変えます。
 - 【M】(広角)：広角になります。
 - 【4】(望遠)：望遠になります。



広角



望遠

51

3. 【シャッター】を押して撮影します。

参考

- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

デジタルズーム

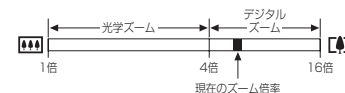
デジタルズーム機能により、光学ズームが最も望遠になった(4倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率：4~16倍(光学ズーム併用)

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. [◀][▶]で“撮影設定”タブを選びます。
3. [▲][▼]で“デジタルズーム”を選び、[▶]を押します。
4. [▲][▼]で“入”を選び、[SET]を押します。
 - “切”を選ぶと、デジタルズームは働きません。

5. 【ズームレバー】を【4】(望遠) / Q側にスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームレバー】を操作して光学ズームが最も望遠になると、いったんズーム動作は停止します。その後、【ズームレバー】を【4】(望遠) / Q側にスライドさせると、デジタルズームに切り替わります。
- 【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。



6. 【シャッター】を押して撮影します。

重要!【液晶モニター】の表示を消している場合は、デジタルズームを使って撮影することはできません(28ページ)。デジタルズームを使って撮影すると、画像が粗くなります。

52

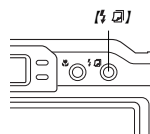
フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. [Fn]を押してフラッシュの発光方法を選びます。

- [Fn]を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。



フラッシュモード表示



表示なし(自動発光)：露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。

- [Fn] (発光禁止)：露出に関係なく発光しません。
- [Fn] (強制発光)：露出に関係なく強制的に発光します。
- [Fn] (赤目軽減)：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. 撮影します。

重要! ●赤の【動作確認用ランプ】が点滅中に【シャッター】を押しても、撮影できない場合があります。

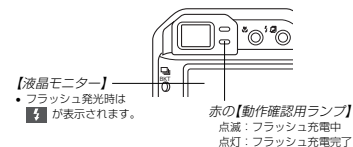
■赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するため起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

- 重要!** ●赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
- 一写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
 - 一被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や赤の【動作確認用ランプ】で確認できます。



フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。

2. [◀][▶]で“撮影設定”タブを選びます。

3. [▲][▼]で“フラッシュ光量”を選び、[▶]を押します。

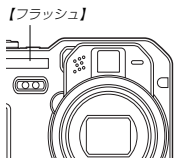
4. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。

- 強：強く光ります。
- 標準：標準です。
- 弱：弱く光ります。

重要! ●被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- フラッシュ撮影時の被写体までの距離が、遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。
 - 数秒~10秒程度(フル充電の場合)
- ムービーモードの場合は、フラッシュは発光しません。このとき[Fn] (発光禁止)が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき[Fn] (発光禁止)が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに電池を充電してください。
- [Fn] (赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯などの光源があると色味が変わることがあります。



セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

1. RECモードにして、[Fn]を押して時間を選びます。

- [Fn]を押すたびに【液晶モニター】に次の順で時間が表示され、切り替わります。

セルフタイマーアイコン



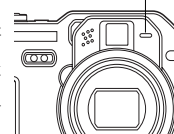
表示なし：セルフタイマーは使用できません。

- [Fn] : 10秒後に撮影されます。
- [Fn] : 2秒後に撮影されます。
- [Fn] : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。
- [Fn] : リモコンを使用するときに指定します(104ページ)。
- [Fn] : リモコンを使用して、セルフタイマー2秒で撮影するときに指定します(104ページ)。

2. 撮影します。

- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

【セルフタイマーランプ】



参考

- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ぶれ防止になります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の“サイズ”や“画質”と使用するメモリーまたはフラッシュの充電の有無によって異なります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影ができなくなります。BULB撮影(69、70ページ)、連写(74ページ)、オートブレイキング撮影(77ページ)、カップリングショット(87ページ)、プリショット(88ページ)

画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(ピクセル数)で表したものです。この画素数は1枚の写真を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

- RECモードにして[MENU]を押します。
- [◀▶]で“撮影設定”タブを選びます。
- [▲▼]で“サイズ”を選び、[▶]を押します。
- [▲▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。

2816×2112	:2816×2112pixelsで記録します。
2816×1872(3:2)	:2816×1872(3:2)pixelsで記録します。
2048×1536	:2048×1536pixelsで記録します。
1600×1200	:1600×1200pixelsで記録します。
1280×960	:1280×960pixelsで記録します。
640×480	:640×480pixelsで記録します。

参考 ● 画像サイズを選択するときは、下記の表を目安にしてください。

設定内容	選択時の目安*
大きい	2816×2112 A3サイズ以下で印刷したいとき
↓	2816×1872(3:2) A3サイズ以下で印刷したいとき ※横縦比が3:2となります。
	2048×1536 A4サイズ以下で印刷したいとき
	1600×1200 A5サイズ以下で印刷したいとき
小さい	1280×960 A6サイズ(ハガキサイズ程度)以下で印刷したいとき
	640×480 メールで画像データを送りたいとき

*1 「選択時の目安」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

- “2816×1872(3:2)”を選ぶと、プリント紙の縦横比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

- RECモードにして[MENU]を押します。
- [◀▶]で“撮影設定”タブを選びます。
- [▲▼]で“画質”を選び、[▶]を押します。
- [▲▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。

高精細	: 高画質で記録します。
標準	: 標準の画質で記録します。
エコノミー	: 低画質で記録します。
TIFF	: 画像を圧縮せずに、そのまま記録します。

参考 ● 画質を選択するときは、下記の表を目安にしてください。

設定内容	選択時の目安
高画質	TIFF 画像を圧縮したくないとき
↓	高精細 画質を優先したいとき
	標準 通常の撮影をするとき
低画質	エコノミー 撮影枚数を優先したいとき

撮影する(応用編)

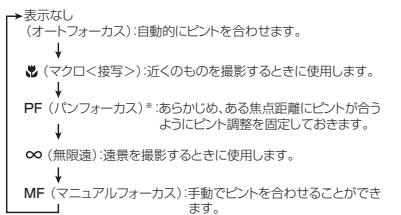
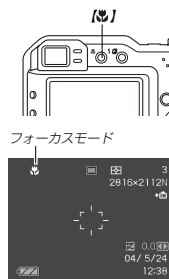
本機はさまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアルフォーカス、パンフォーカスの5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

重要! ● パンフォーカスは、ムービーモード時のみ使用できます。他のRECモードでは使用できません。

- RECモードにします。
- [M]を押して、ピント合わせの方法を選びます。
 - [M]を押すたびに【液晶モニター】に次の順でピント合わせの方法が表示され、切り替わります。



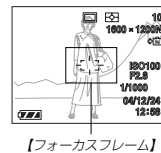
* ムービーモード以外のRECモードでは、“PF”(パンフォーカス)に切り替えることはできません。

自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

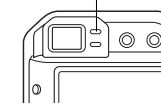
オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が動き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲: 約40cm~∞

- [M]を何回か押してフォーカスモード表示を消します。
- ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。
 - 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。



緑の【動作確認用ランプ】



重要! ● 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(23、195ページ)。

- 画像をTIFF形式(非圧縮)で保存した場合、JPEG形式(圧縮)よりデータ保存に時間がかかります。
- 画質をTIFF形式に設定すると、カメラ上での再生用に、選択されているサイズの高精細画質のJPEG形式画像も同時に保存されます。
- TIFF形式の画像は、リサイズ(113ページ)、トリミング(114ページ)、コピー(144ページ)することができません。これらの機能を実行すると、JPEG形式画像だけがリサイズ、トリミング、コピーされます。
- TIFF形式の画像は、付属のソフト「Photo Loader」(177ページ)を使用してパソコンに転送することができます。「パソコンでファイルを見る」(154ページ)の操作でパソコンに取り込むことができます。

3. [シャッター]を全押しして撮影します。

参考 ● オートフォーカス方式(AF方式)(95ページ)が「ハイブリッド」に設定されているときは、【シャッター】を半押しせずにいきなり押し込むことによって、位相差センサー方式のみでの高速オートフォーカス動作による撮影を行うことができます。ただし、【シャッター】を半押しした場合と比べてフォーカス精度の点で多少劣りますので、ご注意ください。

- 特に緊急の撮影を除いて、【シャッター】を半押しして通常のオートフォーカス動作を行ったからの撮影をおすすめします。

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

■オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える
オートフォーカスモード、マクロモードでは、オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。設定によって【フォーカスフレーム】の形状も変わります。

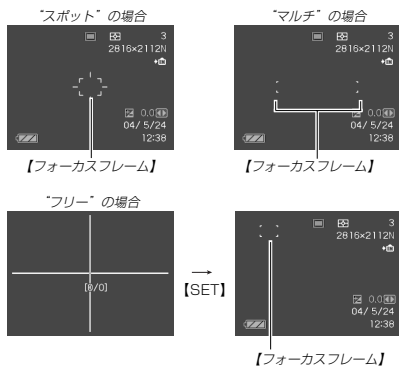
1. RECモードで【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

スポット：中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(64ページ)を活用した撮影に便利です。

マルチ：シャッターを半押しすると、7つの測距点の中で、距離が一番近い被写体にピントを合わせます。集合写真などに便利です。

フリー：【▲】【▼】【◀】【▶】を押した後、【SET】を押して、【フォーカスフレーム】を自由に移動させることができます。フレーミングを考えずに、自由に被写体を捕らえたいときなどに便利です。

参考 ● “マルチ”の場合、幅広い【フォーカスフレーム】が表示されます。【シャッター】を半押しすると、ピントが合った場所の【フォーカスフレーム】が表示されます。



61

近くを撮影する(マクロ)

マクロでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのを撮影(接写)するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲：約10cm～50cm(ワイド端)
約40cm～50cm(テレ端)

1. 【MF】を何回か押して“MF”を表示させます。
2. 撮影します。
 - ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
 - 【動作確認用ランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

62

遠くを撮影する(無限遠)

無限遠では∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. 【MF】を何回か押して“∞”を表示させます。
2. 撮影します。

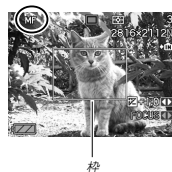
手でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

マニュアルフォーカスでは手でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約10cm～∞
4倍	約40cm～∞

1. 【MF】を何回か押して“MF”を表示させます。

● 手順2で拡大表示される範囲が枠で囲われます。



2. 【液晶モニター】で確認しながら、【◀】【▶】を押してピントを合わせます。

【◀】：近い側にピントを合わせる
【▶】：遠い側にピントを合わせる

- 【液晶モニター】にはマニュアルフォーカスの位置が表示され、おおよそのピントの位置が確認できます。
- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。

3. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! ● マニュアルフォーカス時はキーカスタマイズ(99ページ)により設定されている【◀】【▶】を押しての動作は無効になり、ピント合わせの動作が優先されます。



マニュアルフォーカスの位置

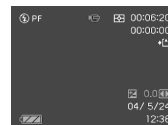
63

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

ムービーモード(89ページ)では、あらかじめ、ある焦点距離にピントが合うようにピント調整を固定しておき、オートフォーカスの動作を行わずに撮影することができます。

1. ムービーモードを指定します(89ページ)。

- ムービーモードにする時、フォーカスモードは自動的にパンフォーカスになり、画面上に“PF”が表示されます。
- ムービーモードで他のフォーカスモードを指定しているときは、【MF】を何度か押して“PF”を表示させてください。



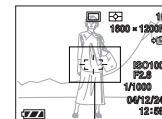
2. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! ● パンフォーカスは、ムービーモード時でのみ使用できます。他のRECモードでは使用できません。

フォーカスロック

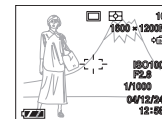
撮影したい構図で【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード(M)で使用できます。

1. ピントを合わせたい被写体を【液晶モニター】で見ながら、【シャッター】を半押しします。



【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。



3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 ● フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

64